



救命率向上を目指して、「CPA」の処置や対応などの事例発表・意見交換した検討会

救命率向上めざす

救急隊員ら 意見交換 心肺停止テーマに

製鉄記念
室蘭病院

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の救急症例検討会が、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、西胆振管内の救急救命士・救急隊員が、心肺機能停止(CPA)に関する搬送時の対応や処置などの事例を発表。同病院の医師らと意見を交わした。

2016年度(平成28年度)2回目の開催。西胆振の救急救命士や救急隊員のほか、同病院の医師や看護師ら計80人が参加。「早期除細動により救命できた症例」について報告した室蘭市消防本部の高橋祐樹さんは「この10年間で救命講習を受けた市民は、その前の10年間と比べると約6倍に増えた」と解説した。

その上で、居酒屋で倒れた40代男性の命が、救命講習の受講歴がある同僚の心肺蘇生法などによって救われた事例を紹介。二人でも多くの人々が、CPA事例に対して、心肺蘇生法が実施できると、救命率の向上が見込まれる。これからも市民に、救命講習の受講を進めていきたいなどと述べた。

登別市消防本部の澤崎敬太さんは「現場の状況から内因性のCPAとして対応してしまつた症例」、西胆振消防組合伊達消防署の花田翔太さんは「大動脈解離特有の症状がみられなかつた症例」、白老町消防本部の宮川元希さんは「搬送途中CPAに移行した症例」を報告。医師らとの意見交換を通じて、一刻を争つ事態での対応や連携を改めて確認していた。

前田病院長は「訪日外国人旅行者・救急搬送の現状と課題」について説明。救急関係者は、インバウンド増を受けた外国人患者の搬送が右肩上がりとなる実情、医療現場と患者間の「言葉の壁」による意思疎通の難しさ、対応に苦慮した例などの情報を共有した。

(松岡秀直)